



今年度人権教育の係になった、理科の井本です。昨年も発行されていた人権だよりを今年度も出したいと思います。読んでもらって、人権のことを考えたり、友達や家族で話したりするきっかけにさせていただけるとうれしく思います。

●心のきずなを深める月間

熊本県では、6月を「心のきずなを深める月間」に定めています。各クラスにポスターが掲示されていると思います。せっかくの機会なので、友達のことや家族のことなど身の回りの人たちとの関係などについて、考えてみてはどうでしょうか。昨年、私は自分の父親との関係を見つめ直す機会がありました。高校を卒業して一人暮らしをはじめてからだいぶ時間が経過し、長いこと大切な話や踏み込んだ話をしてないと気づきました。私の父は75歳を過ぎて親孝行もしないといけないし、もっとももっといろんな話を父とも母ともしたいな～と最近思っています。自分の大切な人と何か話をしてみるのもよいかもかもしれませんね。

学校では1年生と2年生が人権教育のLHRに取り組みました。1年生は「居心地のよいクラスについて考える」2年生は「部落問題学習」でした。3年生は「言わない、書かない、提出しない取組み」について学年集会で話がありました。機会があれば、感想など紹介したいと思います。また、今年度も学校全体の取組みとして「人権標語」に取り組みます。40文字以内の短い文章で、日頃考えていることを、素直に表現してもらえると、心のこもったよい作品ができると思います。必ずしも5・7・5の型にはまらなくてもOKです。人権についてみんなで考えることが「みんなにとって居心地のよい、一人一人が輝ける学校」につながります。

●先日の研修の報告

先日、各学校の校長先生と人権教育の係の先生に向けての研修会がありました。学校で行う人権教育について、様々な話があったのですが、その中で「LGBTQ」

についての講演もあり、私自身も考えさせられることが多くあったので、皆さんとも一緒に考えることができればと思います。

皆さんもご存じの通り、「LGBTQ」とはいわゆる性的マイノリティーの人のことです。「LGBTQ」の人はいろんな統計から5%～8%はいるであろうことは間違いないそうです。100人いたらそのうち5人～8人ですから、思っている以上に多い割合です。あまり、認識していないかもしれませんが、伝えてないだけで私の周りにも身近に必ずいるということです。なので、私たちは自分が知らないだけで「身近にいる」と思って生活すべきだということです。最近はずいぶん理解も進んできて、どのような発言や態度が「LGBTQ」の人たちを傷つけるのか分かっている人が増えてきましたが、過去にはテレビや公式の場で、心ない発言などがありました。みなさんは、心当たりはないですか？私も子どもの頃みていたバラエティー番組などでネタにして笑っているのを見て、何も考えずに一緒に笑っていたと思います。今考えると、そんな空間と一緒に「LGBTQ」の人がいたら「すごくいやな思い」をすると同時に「絶対この人には打ち明けない」と考えたに違いないと思います。「知らないと人を傷つけてしまうことがたくさんある」、「もっと多くの大切なことを学ばないといけない」と強く感じました。

多くの人がお互いの違いを認め合い、差別やいじめのない社会にしていく努力をすることで、「LGBTQ」の問題に限らずすべての「人が居心地のよい、自分のことを隠さなくてもすむ社会」に近づくと思いました。まず、自分から行動できるようにしたいと思います。(文責：井本)

校長先生にも感想を聞いてみました。

先日の研修会に、人権教育主任の井本先生と参加し、宝塚大学の日高先生のお話を伺いました。知らないことも多く、大変勉強になりました。

「LGBTQ」の人たちは、身近にいらっしゃる存在であることを知ることが大切だと思いました。日本では、テレビで「ネタ」として扱われたり、公職にある人からの不適切な発言が、まだまだあつたりしています。学校では、男女共通の制服を取入れるなどの取組が始まっていますが、これから考えなければならぬことも多くあると思います。皆さんと一緒に学びながら、誰にとっても気持ちよく過ごせる学校を目指していきましょう。

(鶴田)